

公民連携箕面観光戦略会議 第3回全体会議 議事要旨

箕面市観光協会

日 時:令和4年12月22日 19時00分～20時15分

会 場:箕面市立市民会館2F 大会議室1

参加者:会場参加者20名/オンライン参加者1名

(公民連携箕面観光戦略会議 第3回全体会議 出席者名簿 参照)

1.開会の辞

事務局より開会が宣言され、議事に入るまでの間、事務局が司会進行をおこなった。

2.ご挨拶

主催者である箕面市観光協会会長の小枝正幸、来賓者の上島一彦箕面市長より挨拶があった。

3.議事

(1)ハーツベリー企業共同体より「公民連携箕面観光戦略会議検討資料」の説明をおこなった。

(●:各委員 ○:柚木座長 ◎:事務局)

○:これまで180人くらいの方に会議に参加いただき、また、事業者回りをする中で、いろいろな方の想いや共通の課題等がみえてきた。座長として皆さんの総意に加え、一方で有識者の一委員として厳しい意見をしながら、最終的にこの戦略を良い方向に進めていけるように、本日取りまとめていく。

令和9年度までの第一次箕面観光戦略ということで、策定会議および分科会で、侃侃諤諤と議論を重ね、議論内容の概ね9割以上がこの中に盛り込まれていると思う。

有識者の視点からの意見としては、P22にある観光ブロック7エリアのうち重点エリアとして箕面公園と滝道を中心に実施していくというのは、皆様の方針として、それはそれで良いと思う。

ただ、箕面市観光協会、箕面市が一緒になって、今後も観光戦略を推し進めていく中で箕面公園と滝道以外のエリア(例えば、止々呂美、小野原、彩都、萱野など)にも当然広げていくことが必要だと思う。そして、各エリアの地元の方を含めた各所の視点というのは、非常に重要だと思っていることを意見として述べさせていただく。

二つ目に、P46.情報プラットフォームの運用に関して、第1回目の全体会議のときもサイン計画や情報の錯綜の事例などをお話した。また、この半年間事業者の方から情報の発信力が弱いと、特に多くの意見を聞いた。この点については引き続き力を入れるべきである。

また、DXを進めていく上で不足している情報というのは宿泊部分だと思う。宿泊できるところが何か所あって、そこにどれだけの部屋があるか、それらがどういう形で利用されているかなど定期的に毎月集計する。そのようなデータの集計がどれだけ泊まることができるキャパがあるのかということに繋がっていき、最終的には観光客の来訪に繋がる。DXなくしては観光は成り立たないと思っており、今後の箕面観光に大きく寄与する一つの起爆剤になると考えている。

次に、P50. P51. P54の推進体制について、これを絵に描いた餅にしないために、どういう組織で、どういうリーダーがいて、どのようにしていくかということ、来年度方針としてまだまだ議論していただきたい。ここの記載されたことは、皆様方と箕面市のコミットです。特に、この部分は、有識者としての強い意見です。

P52.のKPIの部分について、観光客入込数の項目は必要だが、観光客数を昭和50年代の280万人にすることが5年でできるのか7年なのか、8年なのか、また数値についてもまだ検証の余地があると思う。大いなる箕面観光の復活のために力を入れるということで昭和50年の280万人前後のところを目標とするならばそこを目標値(KGI)にして毎年のKPIを作り、これを新しいチームで検証していくということが非常に大事になる。

観光案内所を利用している外国人の利用者数は観光案内所を利用しているだけなので、実際、電車で来たが来所していない、車で来たが来所していない、バスで来たが来所していないという人は入らないので、これは実際の数字とちょっと遠いと認識している。

ホームページPV数について、ホームページは観光DXとしては非常に重要。他のページを見て飛んできた場合はPV数という意味で見ると弱い、追わないといけない数字ということには間違いないので、これはこれでやるのは良いと思う。

また、夜の観光コンテンツの開発をしていくことで客単価を上げていこうと強い思いを持って記載してあるので宿泊数の把握が必要だと思う。1日観光して帰るのと宿泊するのでは、客単価も全然違うので。

そういう意味では外国からの観光客がどれぐらいの割合で、日本人の割合がどれぐらいか、男女とか色々分かればよいが、まずは最低限やらないといけないことは必ずやるというところで、強く推し進めていかれるのが良いと思う。

このほかに、観光業だけでなく商工事業者の方や運輸事業者などいろんな方が相乗的にシナジーを生むことで、初めて観光が成り立ち、観光が成り立つ先には、必ずまち作りが成り立つので観光消費額は重要である。例えば、5人の人が箕面で1,000円のものを買ったと観光消費額は誰が見てもわかる5,000円となる。上島市長が掲げる「大いなる箕面観光の復活」を実現するために、人数だけ増やしても何も変わらず、人がいっぱい来ても、現在の課題として困っているように遊休施設が増えていくだけになる。トータルの、コングロマリットの視点で、これに何が必要かという点、5人が10人なるのがベスト。ところが、1,000円のものそのまま売れるというのは難しい。これが仮に600円になると10人600円だと6,000円となり、そうすると、薄利多売なるが5,000円が6,000円なるということはKPIという数字で見ると1.2倍になっていく。当然儲かっているということで、それは当然税金という形にもかえていくし、今後の施策というところを大きく変えていく。ただ、1,000円を600円に下げるとするのは事業者としては良くはない。皆様から策定部会で話が出てそこでもご説明させていただいたが、この中にはその商品やサービスを含めたプランニングということを記載している。だから商品やサービスをブランディングすることになる。そのブランディングすることによって価値をつけるのではなく、付加価値、特に高付加価値をつけることで商品の単価が上がれば全てのKPIが上がる。ただ、数字に追われるというのは、定量的話だけではなく定性という部分でも注視していかないといけない。そこは議論の余地があり、あくまで有識者としての提案である。

次に、観光消費額というところについてはP8.P9.も同じようなことがたくさん記載されているので、KPIとして記載しないという方向性はないと思う。この算定した根拠というの、根拠があって数字は作っているが、弱いと思う。観光に関する共通基準という観光庁が出しているような何十ページのものがあり、こういう資料を使ってどういう風に箕面市として進めていったら良いかというのを、方向性を出しながら、ちゃんとした数字を出して実数を把握するというのが、今後の箕面の観光にとって大きな目標(KGI)になると思うので、そこに対してアプローチをしていくということが重要だと思う。

KPIについては、国定公園利用者数の伸び率が1.1倍ということで、他も1.1倍ということではなくて、令和5年度の北大阪急行の延伸に伴い、令和6年度から観光客に対して大きな起爆剤になるし、令和7年度万博開催に関しても、外国人観光客が

増えると考えられる。東大阪市は Osaka Metro 中央線が走っているので万博に向けていろいろなことをやっている。北大阪急行を延伸することは、箕面にとっても大きなチャンスがあるので、アクションプランの中に織り込みつつ、今後計画をしていく必要がある。その中で、観光客数を増やすということと、もしかしたら旅行支援のようなものができていて、さらに観光消費額があがっていくことになるかもしれない。令和 8 年度に関しては、箕面市制 70 周年に当たるので行政でいろいろなことをやられることがあるかも知れない。いろいろな数字が増えてくるかもしれないのでちゃんと加味して数字を作るべきだと思っている。

- :アクションプランの中のフードツーリズムについて、DMO 事業として、泉州のかたと一緒に、実際に旅行商品化を図り、「あじわい大阪」という名前で、商品として販売を始めている。大阪の観光情報を紹介している公式のホームページ(OSAKA-INFO)に商品として販売するというようなことも可能である。もし、実証実験途上でもイベントというような形で実施する場合には、本ホームページのイベント情報などで案内が可能であり、リーチを伸ばすことができるのではないかと思う。また、アクションプランの内容を、来年 10 月 26 日から 29 日にインテックス大阪で予定されている「ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪関西」で PR してはどうか。

もう一点、観光の DX に関しては、大阪観光局でも観光庁から採択された実証事業が始まっている。当局として 3 ヶ所の観光案内所を運営しているが、109 言語観光コンシェルジュ実証事業というのを始めている。多言語チャットツールを使い、いろいろな言語の国の方々からのご質問を、そのツールを使うことによって日本語で返事を行うことができる。コスト面等を検討し、そういったものを使ってはどうか。またその点に関しての情報や利用の実態等についても当局からもご提言できることがあると思う。

- :様々な関係諸団体の方々、この頻度で会う必要があるかどうかは別として、お会いできること自体は非常に有意義な時間だったので、今後も続けたら良いと思う。観光戦略に記載されているような箕面観光戦略推進委員会ではなく、このままの会議体で続けたらよいのではないか。この中で、例えば箕面観光二次交通〇〇委員会という委員会形式を細分化し、その関係者がこのアクションプランをもとに協議して、アクションプランに落とし込んでいくべきである。

箕面市観光協会に関しては、私は強く法人化を希望する。この秋に関しても、箕面市観光協会が法人化されていない任意団体だったからこそ出来なかったことも多かったと感じている。

KPI について、箕面市のポテンシャルを考えれば、この KPI は本当に低すぎる。観光協会の HP ページビューを、1 年間で 60 万という低い設定ではなくて、もっと高い目標を目指して欲しい。

もう一つ、箕面という場所に関して、彩都ができたり、箕面萱野ができたりという風に、40年前とは大いに都市の成り立ちが変わってきているので、箕面市の滝を中心とした観光戦略というものに固執せずに、箕面萱野には、電車が走る以上その集客力は無視できない、センターマイクは箕面萱野が持つべきだと思う。滝周辺など山や自然、景色、勝尾寺や西江寺、瀧安寺とか歴史あるスポットなどは昨日や今日では作ることができないが、センターマイクの一番有名なスポットが当たる場所は、箕面萱野にして、箕面の滝は名脇役的な、ある種のノスタルジックな空気を保ちつつ、自然を守っていくような立ち位置でいることが、実は箕面の全体の観光戦略の今後のプランだと思う。しかしながら、その箕面の滝をどうするかみたいなことだけ考えたら、40年前からもう街の成り立ちが変わっていることを鑑みると、この観光戦略会議のメンバーで、委員会や事務局を立ち上げてもらって、その関係者に招集をかけて、アクションプランを考えて、行動に落とし込んでいくことを強くしていただきたい。

◎:本会議体については箕面観光戦略を策定するために、委員から意見等を伺い、検討するという目的になっている。箕面観光戦略の策定により、本会議体は、役割を終える。箕面観光戦略の推進イメージについては、新たな会議体である(仮称)観光戦略推進委員会を立ち上げて進めていく。

●:私は滝道そのものが箕面観光の中心であると思う。今まで長い間、歴代何百年かけて、その滝道を中心にまわってきている。時代が変わったからと、すぐそれを中心から外してしまうのではなく、中心地での事業を磨き上げにより、それが次のエリアの方へのステップとなるのではと思う。ただ、これから各エリア、北摂全体にPRしていく必要がある。箕面公園が理想ですということを発信してこそ、良いものができるのではないかと思う。

エリアはエリア毎で考えていかなければならないと思うが、箕面市観光協会としては、中心をどうしていくのかその動きを考えてから進んでいくと思う。ただ否定されて、もう滝道ではできないので、他所の業者に委託するという話ではなくて、お互いが協力し合ってこの観光を推進していくのであれば良いのではないか。地元の人も参加していただき、良い形でこの委員会を作っていくことを推進したい。それらを事務局で作業を一つ一つどうしていくか、それも考えていくことも大事だろうと思う。

●:箕面大滝というところにおいてもその二次交通等々を考えると、その活かし方があると思う。一方通行規制を秋の時期にやることに関して、路上駐車させている車が、なかなか滝道にお金を落とすという経済活動を生まないということ自体を議論すべきだと思う。私が5,000社以上の旅行会社へのアプローチする中で、旅行会社曰く箕面は大渋滞している、一方通行規制をしているということで、敬遠していると聞き及んでいる。一方通行規制を、南から北ではなく北から南へとすることがお金を生ん

でゆく一つの方法案なのではないかと、そんなことをトライアルとして考えていくような柔軟性を持たないといけないのではないかと。

- :私は観光というそのものは、賑わいであると思う。今は滝道で、朝夕、散歩されているかたについても賑わいだと思う。賑わいのないところに、観光のイメージはなく、箕面市民に向けてのPR、地道な作業が必要で、地元を大切に推し進める。北摂内でのPRも含めて、一つ一つ推し進めていく地道な作業が必要と考える。
- :大いなる箕面観光の復活の背景にあるのは、阪急箕面線の乗降車数が半減している、これは危機と考えられる。コロナの影響もあるが、平成2年に5万人を超えていた乗降客数が現在は2.4万人と半減していることをなんとか回復させなければならない。観光客を取り戻すことに加えて、阪急電車の乗降客数も確保することが大切である。箕面大滝やそこに至る滝道のロケーションは、大阪府下では他にはない価値があり、これをブラッシュアップする。策定資料で欠けていることとしては、観光消費額、客単価、宿泊数について稼働率を出していく等、KPIに入れるべきだと思う。箕面には東部があり、彩都もある。それから萱野エリアでは北急の延伸が1年4ヶ月後にひかえている。これによってターミナルが千里中央から箕面萱野へ移る。ここから山の頂上に行くバスを使用したツーリズムも既に取り組んでいただいている。ジャパンエコトラック、自然休養林、あるいは府営公園も含めて、サイクリング、トレッキング、カヤックのルートづくりや、休憩所の整備、勝尾寺園地そのものも自然保全の活用に向けていく、そのような全体構想を箕面市内の東部地区、萱野エリアを含めて連携していくような構想を今後作っていかねばならないと思う。せっかくできた公民連携戦略会議については、各委員が持っている魂を、是非とも相乗効果を持たせて、前向きにつなげて、アクションプランの実現に取り組んで行かなければならないと思う。
- :組織の体制と運営に関して、我々は地域を活性化し豊かにする団体から参加をさせてもらっている。様々な各社の皆様とともに議論を行い半年やってきたわけですので、それでこういったいろんな情報が集まってできてきたわけで、引き続き、来年以降も継続して、もっと観光を多方面から皆さんに知ってもらえるような環境作りを構築していけたらと思う。
- :公民連携は基本である。解散といこうことではなく、もう少しメンバーを絞りながら、どう展開できるのかがこれからの課題と考えている。方法論は今後ご意見を聞きながらつめていく。

●:今回これだけの団体各社の皆様が集まることで、いろんなご意見ができてこういう形になったと思うが、縮小されると意見が少なくなるのではと思うが、いかがか。

●:組織を今後どうしていくのか。開催規模回数は、小委員会を設けていくのか、箕面市と協議していきたい。

○:法人化が大事だというご意見をいただいたことは、同様に強く感じている。あとは、箕面市近隣の自治体とも広域の観光を進めなければならないと思う。それはDMOかどうかというのはあるが、実際、私の会社自体、能勢にあり、能勢も豊能も池田も茨木も高槻も、観光協会絡みでいろいろな事業を行っている。今後茨木にできる吊り橋についても、隣のことなので、箕面市もそれに乗っからないという手はない。そういう意味でも広域観光を実施するなどいろいろなことをする上で、やはり組織体制、マネジメントする体制は非常に大事なので、それらを踏まえて法人化については記載されている。

もう一つ、事業の実施にあたって今後ずっと箕面市が負担をしていくだけではなくて、法人化をすることで、いろんな補助金を申請したり、観光関係の国の事業から資金を集めることができるようになる。これは、地域団体もしくは法人と言われるものであれば必ずできるということだ。

旅行業の件でもかなり策定部会では議論された。策定の中でこういったことがもしできるのであれば、いろんな事業者も助かるし、料金を下げるということは、やはりクオリティが上がるということに繋がる。

当然営利目的であって自分たちの自主事業の中でも、やはり箕面市だけではなく観光協会単体としても、お金を稼いでいく。戦略に記載がある基金だけではなくて、外部から外貨を稼ぎ、事業として外から取ってきたお金を域内で回して域内経済を回していくということ、これが観光に繋がり、必然的にまち作りに繋がっていくので、みんなで一致協力していろんなお金を外部から稼いでいけるような団体にする、それを一つ大きな目標として、法人化をするのが必須ではないかと思う。

今回大きな修正をするという風には考えてはないが、今出たような観光戦略会議をこのまま継続してやっていくということであれば、この推進委員会というのを推進委員会という名前で新たにするのか、このまま観光戦略会議という名称でやっていて、例えば、いろんな委員会が立ち上がるのであれば、その委員会の中で必要なものを集めていくという形にしていくような方向性で進めていいかというのを、確認をさせていただきたい。

●:法人化は観光協会として反対はしてない。ただ、私も過去に別の団体で、社団法人格を取る際に大阪府へ幾度も行くなど大変だった経過もあり、観光戦略から生み出

されたいろんなアクションを起こさないといけない時期に即実現というのは無理だろうと考えている。

●:法人化の時期については、これまでも観光協会と何度か話をしている。今回、この観光戦略の策定に向けて全力で取り組んでもらっているので、当然、今後法人化に向けて、いろいろ協議しながら、検討していきたいと考えている。

また、近隣市に来られる観光客を箕面市にも来てもらえるような、観光ツアー等のコンテンツを考えて、一緒にやっていきたいということもある。そういった意味でも、法人化というところが、一つの大きな選択肢になるかと思うので、そこについては箕面市と観光協会と協議をしながら、前に進めていきたい。

○:KPIのところに関しては、当然数字を設定した上で、事務局から後日皆様に確認させていただくのが良いと思う。

●:本会議がこれで解散した後、何がどうなのかが見えないので、誰が委員長になってすすめていくのかそれだけでも決めて、この会議体を解散して欲しい。観光戦略会議って既に名前があるのであれば、それでいいのではないか。いつ集まりますかと、なったときに、またゼロから始めるのは駄目だと思う。

○:事務局からは観光戦略推進委員会の立ち上げ時期など、どういう方向性ですととかというような返答はあるか。

◎:現状では皆さんで作り上げた観光戦略に則って、推進主体は箕面市と観光協会と協議をしながら、この委員会の立ち上げというところを検討していく。

●:オペレーターが箕面市と観光協会なのか。その理解でいいのか。

◎:その通り。

●:実証事業というのが3つ記載されているので、先ほどの今後の会議体どうするという話もあると思うが、次年度以降をこうしようといったことを、それまでの間に考えていただくような形はどうか。この実証事業の結果が検証されないままに終わると絵にかいた餅で、結果を誰も知らずに終わるといことになるかと思う。

○:実証事業の結果については、最終的に観光協会・事務局の方から、皆様に報告していただくという形でよろしいか。

◎:報告はメール等、何かのかたちで行います。

●:今後どう推進していくかということが、一番大事な部分だと思う。箕面市はこれまで観光に対する基本計画や、アクションプランを含めて計画というものが一切なかった。観光立市を唱えていながら全く計画っていうものがなかったので、今回この計画は大切にしたいと思う。

一番肝心なところは推進体制だと思うので、今の戦略会議の委員をそのまま引き続き推進委員会に持って行けば良いのではというのも、これも一つの案だと思う。資料にあるように、箕面市と観光協会が推進体制主体となっているので、箕面市の考えもあれば、観光協会の考えもあるので、今この場では決めかねると思う。

○:ある程度意見があり、返答しなければいけないものもあるが、このまともてきた箕面観光戦略は、基本的にこれがコミットとなる。強くコミットしているということ、皆様認識していただいた上で、これをこのまま承認。進めていくという方向性でいきたいと思うが、いかがか。

(箕面観光戦略を、委員の皆様により承認いただく)

○:それぞれまだ課題やすぐに答えが出ないものもあるが、早急に取り組んでいく。意見にもあった隣の市もいろんなことに取り組んでいるので、ゆっくりとしているとあっという間に抜かれてしまうし、チャンスを失ったら、これほどもったいないことはない。北摂では、箕面市は圧倒的に人口が増えている。企業数や造成地も増えている。これだけ伸びているところは、この近隣の市町村にはないので、そういった強みを活かして、かつ大阪の背骨と言われている御堂筋線・北急の延伸というところも非常に大きいため、そこをフル活用する。今までの業者の皆様方の知見や思いが、本当に箕面観光戦略にコミットされている。絵に描かれた餅にならないように進めて欲しい、座長として最後に申し述べしておく。

●公民連携箕面観光戦略会議 第3回全体会議 出席者名簿

分野	団体・組織名	全体会議	備考
有識者	地域活性化伝道師(内閣府登録)	柚木健 様	座長
商業者 事業者	箕面商工会議所	松出未生 様	副座長・オンライン出席
	箕面物産商組合	奥野輝夫 様	
	大江戸温泉箕面観光ホテル	安松隆行 様	
	阪急電鉄(株)	小紫美香 様	
	阪急タクシー(株)	中村慎治 様	
	(株)阪急交通社	佐場淳司 様	
金融機関	(株)池田泉州銀行 箕面駅前支店	杭田智則 様	
寺社関係者	勝尾寺	小嶋隆文 様	
	西江寺	小倉叡裕 様	
まちづくり団体 観光関係団体	箕面市観光協会	小枝正幸	副座長
	箕面まちづくり協議会	福西治 様	
	箕面FMまちそだて(株)	藤井栄治 様	
	箕面公園管理事務所	木村義行 様	
	箕面青年会議所	高橋諭吉 様	
	みのお山麓保全委員会	高島文明 様	
	箕面市音楽協会	前田一成 様	
行政関係者	(公財)大阪観光局	梶浦愛子 様	
	池田土木事務所	服部博之 様	
	箕面市地域創造部	小山郁夫 様	
	箕面市教育委員会(文化国際室)	小林和幸 様	